

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（8月）

発表日：9月22日（木）

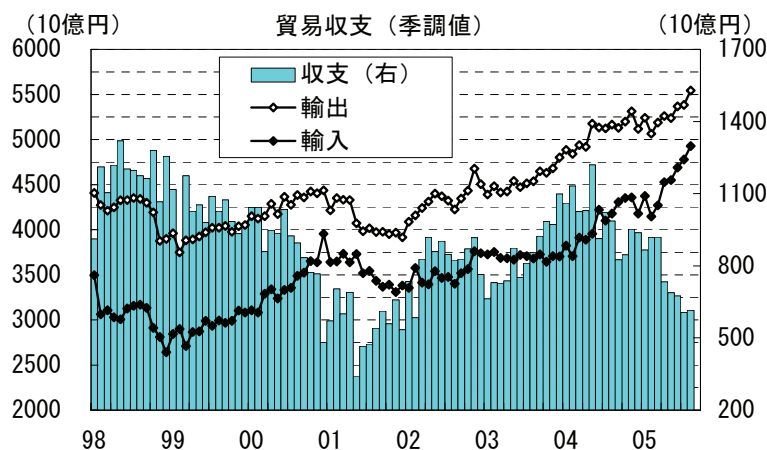
～ 輸出を取り巻く環境は改善 ～

(No. J-119)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
04年8月	986	5166	4180	573
9月	825	5131	4306	1213
10月	846	5199	4353	1154
11月	953	5313	4360	597
12月	938	5117	4179	1133
05年1月	866	5240	4374	194
2月	918	5064	4145	1090
3月	920	5190	4270	1119
4月	733	5261	4527	958
5月	689	5238	4550	293
6月	676	5368	4692	869
7月	607	5386	4779	870
8月	615	5543	4929	116

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年 8月	10.5	▲ 0.5	11.1	5.1	7.7	11.8	18.7	4.9	13.1	23.1	6.1	14.8
9月	12.1	0.5	11.5	7.2	4.7	16.5	12.5	8.5	3.7	17.1	▲ 2.7	8.8
10月	11.7	7.0	4.3	▲ 3.7	1.2	7.9	12.7	12.1	0.6	40.7	▲ 5.4	▲ 2.2
11月	13.4	7.6	5.3	2.8	3.1	13.6	28.1	11.8	14.6	10.6	11.8	16.0
12月	8.8	5.9	2.7	0.5	3.2	6.8	11.1	8.1	2.8	16.6	▲ 0.3	4.5
05年 1月	3.2	6.5	▲ 3.1	▲ 5.2	▲ 14.6	▲ 1.5	11.4	8.7	2.5	▲ 0.5	4.2	4.9
2月	1.7	6.1	▲ 4.2	2.3	▲ 6.7	▲ 3.7	11.4	6.6	4.5	4.5	▲ 3.4	12.2
3月	6.1	4.9	1.1	3.4	▲ 9.2	1.0	7.7	6.0	1.6	▲ 1.2	▲ 5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲ 1.4	0.8	▲ 2.5	▲ 1.9	12.8	13.4	▲ 0.6	▲ 4.2	2.5	2.7
5月	1.4	4.0	▲ 2.5	2.0	▲ 7.8	▲ 5.0	18.7	9.2	8.7	6.8	3.5	11.0
6月	3.6	3.1	0.5	2.4	▲ 8.8	▲ 0.6	11.1	8.9	2.0	▲ 0.1	▲ 2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 2.8	▲ 4.5	11.7	12.4	▲ 0.6	7.1	▲ 4.8	▲ 1.0
8月	9.1	7.1	1.8	3.5	▲ 2.7	0.8	21.2	11.1	9.0	8.5	6.4	12.6

○ 原油高により貿易黒字は縮小も、輸出は増加

8月の輸出金額は前年比+9.1%、輸入金額は+21.1%、貿易黒字額は前年比▲79.7%となった。貿易黒字は市場コンセンサスである前年比▲32.4%を大幅に下回ったが、これはもっぱら輸入金額が原油価格高騰の影響で大幅に増加したことによるものだ。

だが、最も注目されていた輸出に関してはコンセンサス（前年比+8.3%）を若干上回っており、むしろ良好な内容といえる。輸出数量指数が前年比+1.8%と2ヶ月ぶりにプラスになったほか、実質輸出も季調済み前月比+3.3%と比較的はっきりとした増加となっている。7、8月平均の実質輸出は4-6月期比でも+2.5%増加しており、足元で輸出が緩やかに持ち直し始めていることが示された。来週公表される8月の鉱工業生産は予測指数で前月比+2.3%と増加が見込まれているが、8月の輸出の動きから考えると、予測指数に近い高い伸びが実現する可能性が高まったといえるだろう。

輸出の内訳をみると、中国向け輸出金額が、5月に前年比横ばいまで鈍化した後、6月同+2.2%、7月同+6.6%、8月同+17.8%と持ち直してきていることが特に目立った。昨年末から落ち込んでいた中国向け輸出にこのところ改善の兆しが見えることは心強い。依然として中国向け輸出の大きな抑制要因となっている中国での在庫調整に関しては、水準自体は依然としてかなり高いものの、方向としては在庫は減少に向かっている。今後もしばらくは目立った増加は期待できないにせよ、中国向け輸出は持ち直しの方向に向かっていると看してもよさそうだ。また財別では、半導体電子部品等、IT部門の輸出復調が目をつけた。半導体電子部品輸出は前年比でもプラスに転じており、世界的なIT部門の在庫調整の進捗を裏付けている。こうした状況から考えると、8月の鉱工業生産指数では、IT部門の在庫循環図が45度線を横切り、在庫調整終了が確認される可能性は高いだろう。

輸出の動向に先行する傾向のある指標をみても、OECD景気先行指数、米国ISM製造業新規受注、北米半導体製造装置BBレシオなどでは足元改善が見られる。このように、輸出の低迷を示唆する指標ばかりであった数ヶ月前と比べれば、輸出を取り巻く環境は明らかに改善している。輸出は今年10-12月期頃には改善傾向を次第にはっきりさせてくるだろう。

○ 7-9月期のQE外需寄与度もプラスか

SNAでは、財の輸出入だけでなくサービス輸出入も加味して計算されている。これと同じ方法で計算したところ、8月の実質輸出は前月比+3.6%(7月同▲0.4%)、実質輸入は同+5.0%(7月同▲3.1%)となった。この結果、7、8月平均の対4-6月期比は、実質輸出が+2.9%、実質輸入が+1.4%となり、外需寄与度は+0.2%ポイントとなる。輸出に関しては、4-6月期に前期比+2.9%と高い伸びだったにもかかわらずプラスとなり、底堅い動きを示している。現時点までの情報から判断すると、輸出の増加に支えられる形で7-9月期の外需寄与度は4-6月期に続いてプラスとなり、GDPの押し上げ要因になりそうだ。

